

# [シラス]

## 1. 経年経過及び平成23年1～2月期の漁況の経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では平成11年の5,450トンを一ピークに減少傾向を示し、平成14、15年と1,000トンを下回り低調に推移しました。その後平成16年は3,507トンと比較的好調に推移しましたが、平成17年以降減少傾向を示し、平成21年は1,771トンとなりました。

志布志湾海域では平成12年の1,407トンを一ピークに減少傾向を示し、平成14年は396トンまで減少しました。その後平成15年以降は増加傾向を示し、平成19年は2,374トンと好調に推移しましたが、平成21年は871トンまで減少しました。

今期の西薩海域はカタクチシラス主体に1.2トンの水揚げで、前年の2.1%、平年の2.7%と前年・平年を大幅に下回りました。志布志湾海域では前半はカタクチシラス主体、後半はウルメ混じりで66トンの水揚げで、前年の246%、平年の154%と前年・平年を上回りました。

## 2. 平成23年4～6月期の見とおし

漁獲の主体は、カタクチシラスでしょう。来遊量は、西薩海域、志布志湾海域ともに前年・平年を下回るでしょう。

(根拠)

西薩海域ではカタクチイワシ親魚の来遊状況や、本年3月の卵稚仔調査結果でのカタクチイワシ卵の出現状況が前年・平年を下回っていることから、前年・平年を下回ると考えられます。

志布志湾海域では、近隣のシラス漁の漁模様や、太平洋側近隣のカタクチイワシ親魚の来遊状況、直近の漁模様から、前年・平年を下回ると考えられます。

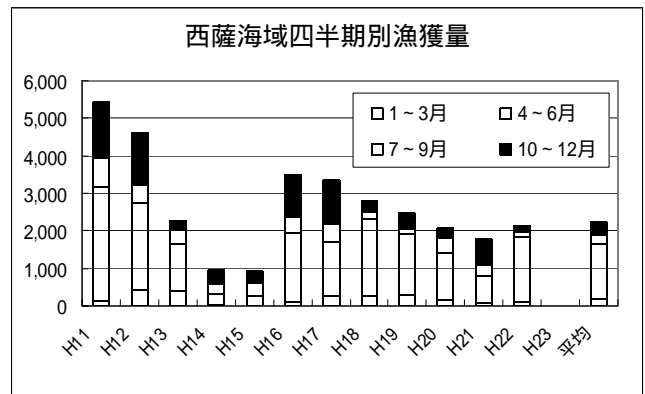
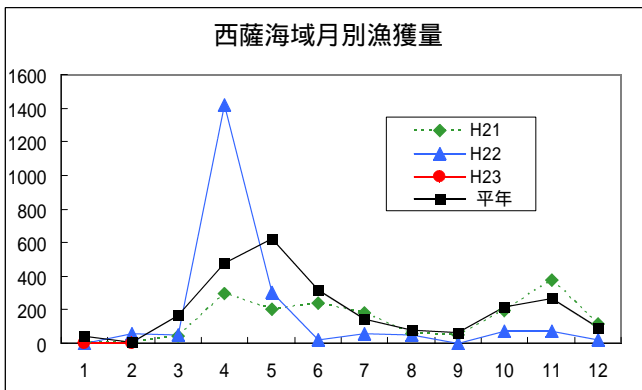


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4漁協計)

平年値は過去5年(平成18～22年)の平均値(AV)、平成23年2月末までの水揚量を使用。

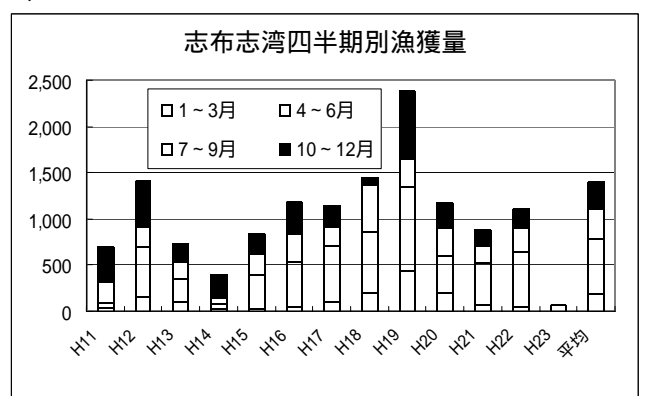
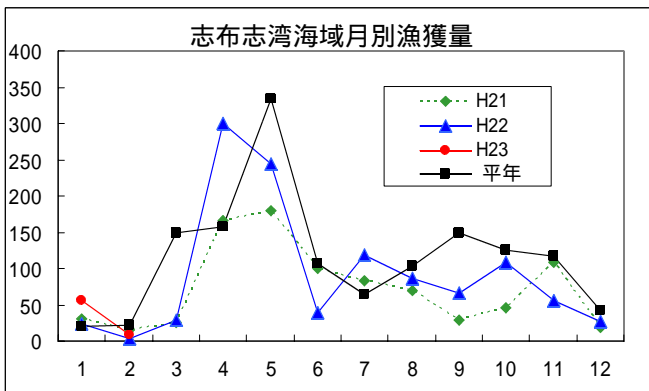


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

平年値は過去5年(平成18～22年)の平均値(AV)、平成23年2月末までの水揚量を使用。